

## 出題範囲

出題範囲は次のとおりです。主要項目のうち、「基礎項目」は優先的に出題されます。ただし全範囲にわたって出題されるとは限りません。

区分	主要項目 (太字は「基礎項目」)	
1 社会・文化・地域	<b>1. 世界と日本</b>  <b>2. 異文化接触</b>  <b>3. 日本語教育の歴史と現状</b>  <b>4. 日本語教員の資質・能力</b>	(1) 諸外国・地域と日本 <b>(2) 日本の社会と文化</b>  (1) <b>異文化適応・調整</b> (2) 人口の移動 (移民・難民政策を含む) (3) 児童生徒の文化間移動  (1) <b>日本語教育史</b> (2) 日本語教育と国語教育 <b>(3) 言語政策</b> (4) 日本語の教育哲学 <b>(5) 日本語及び日本語教育に関する試験</b> (6) 日本語教育事情：世界の各地域、日本の各地域
2 言語と社会	<b>1. 言語と社会の関係</b>  <b>2. 言語使用と社会</b>  <b>3. 異文化コミュニケーションと社会</b>	<b>(1) 社会文化能力</b> (2) 言語接触・言語管理 <b>(3) 言語政策</b> (4) 各国の教育制度・教育事情 <b>(5) 社会言語学・言語社会学</b>  (1) 言語変種 <b>(2) 待遇・敬意表現</b> <b>(3) 言語・非言語行動</b> (4) コミュニケーション学  (1) 言語・文化相対主義 (2) 二言語併用主義 (バイリンガリズム (政策)) <b>(3) 多文化・多言語主義</b> (4) アイデンティティ (自己確認、帰属意識)
3 言語と心理	<b>1. 言語理解の過程</b>  <b>2. 言語習得・発達</b>  <b>3. 異文化理解と心理</b>	(1) 予測・推測能力 <b>(2) 談話理解</b> (3) 記憶・視点 (4) 心理言語学・認知言語学  <b>(1) 習得過程 (第一言語・第二言語)</b> <b>(2) 中間言語</b> (3) 二言語併用主義 (バイリンガリズム) <b>(4) ストラテジー (学習方略)</b> (5) 学習者タイプ  (1) 社会的技能・技術 (スキル) <b>(2) 異文化受容・適応</b> (3) 日本語教育・学習の情意的側面 (4) 日本語教育と障害者教育

<p style="text-align: center;"><b>4</b></p> <p style="text-align: center;">言語と教育</p>	<p><b>1. 言語教育法・実技(実習)</b></p> <p>(1) 実践的知識・能力  (2) コースデザイン(教育課程編成), カリキュラム編成  (3) 教授法  (4) 評価法  (5) 教育実技(実習)  (6) 自己点検・授業分析能力  (7) 誤用分析  (8) 教材分析・開発  (9) 教室・言語環境の設定  (10) 目的・対象別日本語教育法</p> <p><b>2. 異文化間教育・コミュニケーション教育</b></p> <p>(1) 異文化間教育・多文化教育  (2) 国際・比較教育  (3) 国際理解教育  (4) コミュニケーション教育  (5) 異文化受容訓練  (6) 言語間対照  (7) 学習者の権利</p> <p><b>3. 言語教育と情報</b></p> <p>(1) データ処理  (2) メディア/情報技術活用能力(リテラシー)  (3) 学習支援・促進者(ファシリテータ)の養成  (4) 教材開発・選択  (5) 知的所有権問題  (6) 教育工学</p>
<p style="text-align: center;"><b>5</b></p> <p style="text-align: center;">言語一般</p>	<p><b>1. 言語の構造一般</b></p> <p>(1) 言語の種類  (2) 世界の諸言語  (3) 一般言語学・日本語学・対照言語学  (4) 理論言語学・応用言語学</p> <p><b>2. 日本語の構造</b></p> <p>(1) 日本語の構造  (2) 音声・音韻体系  (3) 形態・語彙体系  (4) 文法体系  (5) 意味体系  (6) 語用論的規範  (7) 文字と表記  (8) 日本語史</p> <p><b>3. コミュニケーション能力</b></p> <p>(1) 受容・理解能力  (2) 言語運用能力  (3) 社会文化能力  (4) 対人関係能力  (5) 異文化調整能力</p>

財団法人日本国際教育支援協会ホームページより